

編集後記

平成7年度の水辺空間整備に関するリバーフロント研究所報告をお届け致します。

毎年の事ではありますが、業務の繁忙な折に締切に間に合わせるための努力を行って下さいました、執筆者の方々にまずお礼申し上げます。

平成6年1月の阪神・淡路大地震は、我々に都市整備の新たな方向や方法を提起したものでありますがいかにもその代償は大きく痛恨の極みでありました。未だその後遺症に悩み、悲しみに満ちている人々を思うと我々技術者の使命の重要性を身にしみて感じるものであります。

さて、今年の報告書は昨年に次いで少し体裁を変更致しました。英文のアブストラクトや図表の名称を付けました。国際的な技術交流を視野に入れているという少し過言になるかもしれませんが、新しい試みです。但し、専門語につきましては、まだ国際的に認知された用語のないものもあり不備の点が多々あるかと思われまふ。徐々に整備していくつもりですのでご容赦の程お願いいたします。

論文としては、スーパー堤防の地震時の安定性の評価、水質に関するもの、多自然型川づくりに関するもの、魚ののぼりやすい川づくり、景観整備のガイドライン、海岸の関係等が報告されております。最近の傾向として多自然型川づくりと魚ののぼりやすい川づくりに関する論文が増えております。

今後ともこの報告書が皆様のお役に立つようにテーマの検討を含め益々努力する所存でありますので、皆様のご指導とご鞭撻をお願い致します。

編集担当 研究第3部 上野 久
木田 直秀

追伸

3年間にわたり編集を担当することとなり本人も驚いておりますが、報告書の内容も相当充実したのではないかと自負しています。今後の本報告書の成果に期待をしています。(U)

1996年 3 月30日発行

リバーフロント研究所報告

第 7 号

発行者 財団法人 リバーフロント整備センター
〒102 東京都千代田区三番町 3 番地 8
(泉館三番町 3 階)
TEL 03-3265-7121 FAX 03-3265-7456

印刷所 西印刷株式会社
